1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372300327		
法人名	特定非営利活動法人 ともにあゆむ会		
事業所名	グループホームぶどう苑		
所在地	岩手県花巻市大迫町大迫1-4-55		
自己評価作成日	令和7年 3月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>法人理念 『笑うほめるde元気になる』</p> <p>法人理念の意味を理解し、理念に沿った行動で、利用者様が日常の生活に喜びや楽しみを感じてもらえるよう取り組んでおります。</p> <p>職員は日々OJT・OFF-JTを通して互いに介護技術向上を目指します。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大を防ぐ為に、法人を上げて感染予防対策に重点を置きます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和6年度 グループホーム ぶどう苑

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	推進委員コメント	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に繋がっている	法人理念を基にユニット目標を立て、毎朝のミーティングで唱和し実践に繋げている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防対策として、外部との交流を控えていたが、今年度からボランティアの受け入れ(紙芝居ボランティア)や地区の一斉清掃では事業所として参加することで少しずつではあるが地域との連携を断つことなく継続している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、色々な行事を考えられて地域とのつながりに努力されていると思います。 ・ボランティアの受け入れや地区の一斉清掃で、ぶどう苑として参加、地域とのつながりが出来ており良好である。 ・委員に地域代表の方を入れ活動の報告があり理解を頂いている。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ認知症に対する理解や施設での取り組みを伝える事で関わりを持つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	推進委員コメント	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、介護保険の変更事項や事業での取り組み、事故の詳細等を報告している。以前は別会場で会議を開催していたが、推進委員からの提案で施設で会議を行い情報交換を行う事が出来た。	・施設での会議開催が行われ、より理解されていると感じる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政機関の担当者に参加していただき、意見の聞き取りや情報交換を行っている。	運営推進会議に参加し、事業所の実績、取り組み等を聴取している。行事については会報でも伺い知ることができている。事業所で会議がもたれていることも良い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の「介護事業リスク等検討委員会」を開催し、身体拘束・リスクマネジメント・感染症・権利擁護・BCP業務継続計画について会議を行っている。その他、定期的にリスクマネジメントの研修会を行っている。現状では身体拘束の事例はない。	・男性の方や認知症の方にもやさしく接しられていると感じます。 ・理念に基づいたしっかりした運営がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	推進委員コメント	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護事業所リスク等検討委員会が月1回の会議で実態調査を報告し半年に1回苑内研修に高齢者権利擁護を学ぶ機会を持っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度につて、必要な際に活かすことができるよう情報を取り入れている。さらに、保佐人制度を活用している利用者があり、その担当者との連携を通して職員も学び実践に繋げている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、個々に説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議を通じて直接意見、要望を受け入れカンファレンスに反映させ、ケアの向上に努めている	なし	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議では職員全員が意見や提案を出れるよう配慮をしている。	なし	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し向上心を持って働けるような職場づくりにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修は積極的に参加を促し、報告内容もすぐに閲覧できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流研修や同業者研修を行っており、相互のサービス向上へと繋がるよう学びの機会を積極的に設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	推進委員コメント	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査では、「本人」「家族」同席のもとで、調査を行っている。本人及び家族の気持ちや要望を聞いた上で、利用者本人がどうすれば安心して利用できるかを考え提案している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス内容について家族に説明し、サービス開始後も家族と連携を取り合い来苑時には状況を伝え要望等を伺い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントに重点を置き必要としている支援を見極め、場合によっては他のサービスを視野に入れながら本人・家族と検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事・おやつ時の簡単な手伝いや、片付けを職員と一緒にいき、共に落ち着けるという雰囲気を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の来苑時には必ず近況報告をしている。遠方からの来苑者には写真を撮り記念として渡している。本人から家族と電話がしたいと言った要望にも対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響はまだ残っているが、地域のボランティアの受け入れを定期的に行い、慰問で交流を深めている。面会も居室で行えるように緩和しており関係が途切れない工夫をしている。	・買い物、散歩等も行われていらっしゃるので、地域の理解が染まっていると思います。 ・良好である	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間で職員が入りレク活動等を行い、孤立している利用者がいない様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	推進委員コメント	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等によりサービスが終了しても、退院が決まった時には、連絡を頂き次の受け入れ先の相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活している中において、ご本人の希望や得意な事の把握に努め、意思疎通がままならない利用者様には普段の行動を良く観察し、本人本位の希望を見出し楽しみを持って生活できるように努めている。	入所間もない場合、特に大変だと思いますが、会報の笑顔はステキです。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申し込み時、家族からこれまでの生活環境や、サービス利用状況を聞き取り、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを尊重しながらレク活動を通じ状態の把握に努める。また、得意な事を見つける機会となっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議で利用者様の状態について情報交換を行い、本人及び家族の意見を尊重し介護計画に反映している。	なし	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録や申し送りノートを活用し気付いた事や注意点等、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望により、外出・外食等、柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	推進委員コメント	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所申し込み時に家族からこれまでの生活環境や他のサービスの利用状況を聞き取り生活歴として把握に努めている。趣味や日課についても施設内で対応できる内容については対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には職員が同行し施設での様子や体調を情報提供として書類と併せて口頭で医師に報告している。	・運営推進会議の報告から、こまめに医療機関とのやりとりが行われていると感じています。 ・オンライン医療等もあり事業所として、やれるだけやっていると見受けられます。 ・かかりつけ医との連携がよくなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体の状態や変化に気付いた事を、看護師に相談し指示を受け病院受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、施設職員が病院に付き添い医療機関へ情報提供している。入院中も病院と連絡を取りながら情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前の契約時、本人・家族へ重度化した場合や終末期になった場合の説明をし同意を得ている。終末期の場合にも主治医・訪問看護と連携を図りながら支援に取り組んでいる。	なし	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	推進委員コメント	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員が心肺蘇生法の研修会に参加し訓練している。全員が研修会に参加しているわけではなく、今後は内部研修を取り入れていき緊急時に対応できるように訓練します。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	推進委員コメント	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行っている。消防署から指導を受け、改善に繋げているが、地域との連携は出来ていない。	・実際に訓練を見学させていただき、みなさんが真剣に取り組まれることが良く分かりました。一人でも多くの住民の方に見学いただけると頼りになる事業所だという事が伝わると思います。 ・先日、見学させていただいてスムーズだった事に驚きました。見える形が良いと思います。 ・コミュニティや公民館等へ情報を発信していけば良いと思う。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴、居室での時間などプライバシーに配慮して人格を尊重した声掛けを心掛けている。	なし	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の様子観察を行い、表情や動きを見てコミュニケーションを取りながら本人の思いや希望を引き出す事を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別性を重要視しながら体調やその日の気分など観察し聞き取りしながらレク活動や行事に参加していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気温や季節によって本人の希望を聞きながら、身だしなみができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新型コロナウイルスも5類となり今年から苑庭での食事会や誕生会を行っている。食事の準備や手伝いも利用者と一緒に出来るようになった。	・入所の方が楽しんでいる様子が写真の中に表れています。 ・誕生日は事前に好きな食べ物を聞き昼食に提供し喜んで食べていただいている様子が確認できたので良い取り組みだと思う。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	推進委員コメント	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体重の増減や、体調の変化に気を配り食事量や水分調整を行っている。一人一人の状態によってミキサー食、おかゆ食、刻み食などの個別支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや利用者によっては介助を行い、清潔の保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えのある時にトイレ誘導を行っている。オムツ対応の方は、休む時・起きる時にパットの確認を行っている。それぞれの排泄間隔を把握し自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの違いや体調により、大変だと思います。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として、朝食にヨーグルトを提供している。便秘日数によっては内服薬で調整してる。毎日の日課として施設内を歩行訓練(一部の利用者)をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェックを行い、その日の体調や気分に応じて入浴を実施しています。	なし	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールで居眠りをされている方には、居室で休んでいただいたりソファーで休んでいただく等、本人の希望を聞きながら対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等があった場合は、FTケア又は申し送りノートを活用し職員へ周知している。体調の変化が見られた時には、毎朝のミーティングで情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、タオルたたみ、新聞たたみ、おやつ作り等出来る事を手伝ってもらい、「生きがい」や「やりがい」としています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	推進委員コメント	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設での外出支援は月に1回程度(ドライブ等)で、家族による外出支援は受診対応時となります。その他にユニットごとに外出支援の企画を行っております。(かかし祭り、早池峰ダム等)	・外の空気をするとか、景色を見るだけで、心が落ち着いて良い事だと思います。 ・とても良い取り組みだと思う。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を所持している利用者はいますが、本人から欲しい物又は必要な物を聞き取りし代理で購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により自宅や友人に電話の取次ぎを行う支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りを心掛け、季節ごとに壁面製作等を利用者と一緒に作成し居心地よく過ごせるように工夫している	・アットホームで温かみのある事業所だと感じています。職員の対応も明るく丁寧だと思いますが、心身ともに負担の大きな仕事だと思うので、職員のストレスケアにも力を入れていただければと思います。 ・私達が伺っても、とても良い空間でした。 ・良好に取り組んでいる。 ・利用者さんと一緒に作成する事により完成した作品を見て喜びや楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	推進委員コメント	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを置いて、気の合った利用者様同士と一緒に座りお話しできるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具や日用品を入居の際に持参して使用していただいております。	なし	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、浴室がわかるように名札や場所を示す紙を貼っています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームぶどう苑

作成日: 令和 7年 3月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	2	地域に出向いて活動に参加する事が少なく、事業所として地域貢献や地域交流が出来ていない。	地域の一斉清掃やイベント等の情報をキャッチし、利用者と参加できるイベントには積極的に参加する。	2ヶ月に1回の運営推進会議や広報等にて情報を確認し、職員のみ又は利用者と一緒に参加できる企画については計画し参加する。又、年2回の避難訓練時に地域の方に声を掛け訓練の様子を見学していただく。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加してください。